

## 令和4年度第1回座間市地下水採取審査委員会会議録

- 1 日 時 令和4年7月20日（水） 午後1時30分～2時50分
- 2 場 所 オンライン形式
- 3 出席者 委 員 守田委員長、村田副委員長、宮下委員、原委員  
事務局 環境経済部長、環境政策課長、副主幹兼環境保全係長、主事、主事
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題
  - ・井戸設置に関する審査について
  - ・令和4年度座間市地下水保全基本計画検証事業及び座間市地下水総合調査事業委託について
  - ・令和4年度地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託について
  - ・その他
- 7 配布資料
  - ・資料1 地下水揚水計画に関する審査について（依頼）の写し
  - ・資料2 井戸設置届の写し
  - ・資料3 MODFLOWによる地下水解析シミュレーション結果
  - ・資料4 令和4年度座間市地下水保全基本計画検証事業及び座間市地下水総合調査事業委託について
  - ・資料5 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託 調査計画案
  - ・資料6 令和2、3年度 有機フッ素化合物調査結果
- 8 議 事
  - (1) 井戸設置に関する審査について  
(非公開)
  - (2) 令和4年度座間市地下水保全基本計画検証事業及び座間市地下水総合調査事業委託について
    - ① 事務局説明

平成29年度から5か年をかけて実施した地下水総合調査委託事業について、地下水採取審査委員の皆様のご協力を得ながら、地下水・湧水の保全に有効な対策や施策へ反映させることを目的に進めることができました。今年度の事業は、平成27年度に改訂をした座間市地下水保全基本計画について、これまでの地下水総合調査の結果を反映した検証と、昨年度までに作り上げたGETFLOWSを用いて、新たな2つのシナリオを解析するべく、令和4年度座間市地下水保全基本計画検証事業及び座間市地下水総合調査事業を行います。

今回は、その地下水総合調査の中で、特にシナリオの選定について、地下水採取審査委員会の御意見を申し上げます。

## ② 質疑応答

### ・宮下委員

シナリオ解析で都市化による涵養量の減少は、相模原市も含め、台地全体で都市化の影響を入れてシミュレーションされる予定ですか。

### ・事務局

その予定で考えます。

### ・事務局

確認ですが、都市化について、水田、畑・果樹園、森林など土地利用箇所のみ道路等と同程度の透水性に低下するとしていますが、問題ないですか。

### ・宮下委員

問題ないと思います。

### ・守田委員長

都市化というのは一般に土地利用の変化等で様々が変わってきます。人口増で生活用水の需要が増えます。都市化による影響は、確かに土地利用でやってみるといのは価値があります。今後10年、20年先の座間市の土地利用がどう変化していくかを、人口等全部含めて都市化という観点からどういう風になるかということを含めて情報を提供してシナリオを作るというのが良いと思います。

### ・事務局

揚水量の今後の推移、人口の推移は盛り込んでいますが、都市計画の内容はどこまで対応できるか確認します。

### ・守田委員長

地下水保全に関する業務では、地下水シミュレーションで色々なシナリオを検討しながら進めるというやり方はオーソドックスな方法で、かなりしっかりと取り組まれていると思います。それから、座間市において地下水の問題は何が一番大事なのかということを考える必要があると思います。例えば、市民がそもそも座間市の地下水について、どのくらいの情報知識があって、どういう事を期待しているかということ把握することも必要だと思います。多少意識していただいて、検討を進めていただければと思います。

## (3) 令和4年度地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託について

### ① 事務局説明

有機フッ素化合物の一つであるPFOS及びPFOAは、水道水については、令和2年3月30日付け厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知によりまして、水質管理目標設定項目として暫定目標値が50ng/L（PFOS及びPFOAの合算値）に設定されました。また、水環境については、令和2年5月28日付け環境省水・大気環境局長通知により、要監視項目としての暫定指針値が、同じく50ng/L（PFOS及びPFOAの

合算値) に設定されたところです。市内では、令和3年5月に神奈川県によって、座間市内4地点の井戸水を調査したところ、1地点で暫定目標値の超過が認められました。そこで、超過した地点及び周辺4地点の計5地点を、令和4年1月に再び神奈川県が調査したところ、前回超過した地点では再び暫定目標値を超過しましたが、周辺4地点では暫定目標値の超過は認められませんでした。市では、これらの事から、地下水中のPFOS及びPFOAの分布を調査していく目的で、今年度、市内6か所で年間2回の調査を行うことといたしました。分布を把握することが目的のため、市環境政策課で把握している井戸・湧水を町名ごとに分けし、可能な限り調査地点が分散するように、調査計画を立てました。昨年度、県の調査にて緑ヶ丘地区の井戸から暫定目標値の超過がありましたので、今年度は、引き続き緑ヶ丘地区を始め、台地部の相模が丘地区、ひばりが丘地区、南栗原地区、低地部の新田宿地区を調査計画案に盛り込みました。また、同年度の調査2回は同じ調査地点とし、調査予定月は9月頃と1月頃としました。なお、この調査は、令和4年度から令和8年度までは、神奈川県水源環境保全・再生市町村補助金に係る第4期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画に載せておりますので、今回の調査計画も同期間としております。そのため、配布資料では令和8年度までの計画を案として暫定的に載せていますが、令和5年度以降の調査地点は今年度の結果を参考に、また、次回の地下水採取審査委員会で御意見を伺いながら進めたいと考えております。説明は以上になりますが、本日の地下水採取審査委員会ではこの調査計画が妥当であるかどうか、皆様の御意見を申し上げます。事務局からは以上です。よろしくお願いいたします。

## ② 質疑応答

### ・宮下委員

昨年度までの県の調査結果を見ると、原因が特定しているところから出ているというよりは、まだよくわからないけども、結構市内全域あちらこちらから出ているというような傾向があると思います。それを踏まえると、特定源を探すための調査というよりも、まずは最初の段階として、分布状況を把握するというのを最初の第一段階としてやる必要があると思います。このように考えると、市が把握している井戸をまんべんなく調査地点として選ばれたということなのでよいと思います。今回の調査は、現時点では5年間という想定で、分布もわからない初手の調査であることを考えると、まんべんなくいろんな地域ごとにやっていくことで、早いうちから全体の傾向をつかむことにも繋がるので、調査の選定としてもよいと思います。

### ・守田委員長

令和4年度は事務局提案の内容で、来年度以降は令和4年度の結果を踏まえながらやっていくこと、また、色々な地域でまんべんなく調査をするということもよくわかりましたのでその方向でよいと思います。

### ・宮下委員

調査時期は9月と1月を予定されているという事ですが、年2回水位の高い時期と低い時期の調査をして比較するというのは、地表からそういう物質が入ってくるもの場合には、土壌中に保持されている関係がありますので、地下水位が高いと濃度が変化する事があるので、そういう意味でも夏場というか水位の高い時期と低い時期で比較をするというのは重要だと思います。そのため、遅くとも10月ぐらいまでの間に1回目の調査ができると非常によいと思いますので、そういう時期に進めていただければと思います。

・守田委員長

有機フッ素化合物の問題は全国的にどのような状況ですか。

・事務局

様々なメディアでも取り上げられていますが、本市だけに限定した話ではなく、全国様々な場所で検出されている状況です。国や県のホームページでも現状が伝えられていますので、県や近隣市と情報共有を図りながら対応に努めている状況です。

#### (4) その他（河川の有機フッ素化合物の調査について）

##### ① 事務局説明

河川については、今年度、鳩川水系1か所と市内の広範囲の分布状況を確認する目的で目久尻川水系1箇所計2箇所で座間市独自の調査を9月に予定しています。これは、令和3年2月に神奈川県による鳩川水系の調査がありまして、その中で暫定目標値を超過する有機フッ素化合物の数値が検出されたことによるものです。これまでの県の調査結果ですが、令和3年2月に鳩川水系の六反橋、平和橋下流流入排水路及び見取橋の3箇所において調査をし、結果、平和橋下流流入排水路で85ng、見取橋で56ng、計2箇所で暫定目標値を超える結果がでています。続いて、県による2回目の調査ですが、令和4年1月に実施をしていますが、場所は見取橋のみで、その時は暫定目標値を超える数値はでていません。また、市内中心部を流れる目久尻川についても、昨年度、県による調査は行っていませんので、今年度市内で調査をするというのは初めてです。本日は目久尻川、鳩川水系について、どの地点で調査をすることが効果的であるかということについて、御意見をお願いします。

##### ② 質疑応答

・宮下委員

まず、一度もやった事のない目久尻川についてなんですけども、先程の地下水の調査と併せて9月くらいに行われるということなので、その川に出ているかどうかということをして1回目はどこかで測っておいた方がよいかと思います。場所は川ですので、下流側でとれば流域全体を評価できると思いますので、中、下流域で取りやすい場所を選定されたらよいかと思います。次に鳩川ですけども、こちらは何回か調査をされているのですが、夏場の調査は一度もされていないような気がしますので、夏場でどうかといった時に、冬も測ってあって、

夏も測ってあるという所のどこかがよいと思いますので、今まで図られている所で、一番高い数値の出ている平和橋の所が1回しか計っていないようですので、そこで測るとよいと思います。

・守田委員長

宮下委員の提案されたとおりだと思いますので、それに従って地点選んでいただければと思います。よろしく申し上げます。